

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	10 生活・環境
----	----------

評価 責任 者	所属	環境局 環境共生課
	氏名	課長 石塚 浩史

政策	2 豊かな自然環境を守り次の世代へ繋いでいきます
----	--------------------------

施策	1 南アルプスなどの自然環境・生態系の保全
----	-----------------------

施策の 目的	本市の豊かな自然環境を守り、将来の世代へ引き継いでいくために、定期的な環境調査や保護活動の実施により、南アルプスをはじめとする貴重な自然環境の保全に取り組みます。
-----------	---

(1) 総合評価

総合 評価	令和元 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	南アルプス主要地域として設定した千枚小屋周辺の高山植物の指標となる種数については13種であり、目標値の15種を達成できなかったものの、高山植物全体では33種確認することができており、防鹿柵による保護の効果が見られ、南アルプスの自然環境・生態系の保全に向けて一定の成果をあげていることから、総合評価を「A」とした。
	令和2 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	南アルプス主要地域として設定した千枚小屋周辺の高山植物の指標となる種数については13種であり、目標値の15種を達成できなかったものの、高山植物全体では33種確認することができており、防鹿柵による保護の効果が見られ、南アルプスの自然環境・生態系の保全に向けて一定の成果をあげていることから、総合評価を「A」とした。
	令和3 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	南アルプス主要地域として設定した千枚小屋周辺の高山植物の指標となる種数については13種であり、目標値の15種を達成できなかったものの、高山植物全体では33種確認することができており、防鹿柵による保護の効果が見られ、南アルプスの自然環境・生態系の保全に向けて一定の成果をあげていることから、総合評価を「A」とした。
	令和4 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	南アルプス主要地域として設定した千枚小屋周辺の高山植物の指標となる種数については13種であり、目標値の15種を達成できなかったものの、高山植物全体では37種確認することができており、防鹿柵による保護の効果が見られ、南アルプスの自然環境・生態系の保全に向けて一定の成果をあげていることから、総合評価を「A」とした。

※【評価基準】S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果 指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	南アルプス主要地域（千枚小屋周辺）の高山植物数の維持		13種 （平成29年度）	1	15種	13種（33種）	86.6%	b
2				15種	13種（30種）	86.6%	b	
3				15種	13種（33種）	86.6%	b	
4				15種	13種（37種）	86.6%	b	
			1					
			2					
			3					
			4					
指 標 成 果 以 外 の			1					・平成25年度調査では15種であった高山植物が、令和3年度調査では33種（うち指標種は13種）確認ができ、設置した防鹿柵が一定の成果をあげている。 ・市民向け講話や各種媒体を利用してウェブサイトの存在を周知した結果、ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数が前年度を大きく上回った。（前年度比 13,519件増加、R3実績値：53,257件、R2実績値：39,738件） ・放任竹林の整備を行う里山保全団体として、新たな12団体が活動を始めた。
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
南アルプス環境調査	①動植物調査 1年度実施 ②植生調査 1年度実施	1	1	9,800	0	9,259	0.5	0.0	0.0	○
			2	3,300	0	3,300	0.5	0.0	0.0	
			3	7,887	0	4,796	0.5	0.0	0.0	
			4	8,092	0	6,849	0.5	0.0	0.0	
南アルプスユネスコエコパーク管理運営計画推進事業	①防鹿柵維持管理 ②高山植物保護セミナーの開催 ③ライチョウサポーターフォローアップ講座等の開催	1	1	5,403	0	4,949	1.5	0.0	0.0	○
			2	4,222	0	3,580	1.5	0.0	0.0	
			3	6,440	0	4,193	1.5	0.0	0.0	
			4	4,821	0	4,672	1.5	0.0	0.0	
生物多様性地域戦略の推進	①リーディングプロジェクトの進捗管理 21事業 ②外来生物の適正管理 ③ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」による情報発信	3	1	7,234	0	6,610	1.0	0.0	0.0	○
			2	3,230	0	1,390	1.0	0.0	0.0	
			3	3,219	0	2,900	1.0	0.0	0.0	
			4	3,783	0	3,572	1.0	0.0	0.0	
放任竹林対策事業	①放任竹林対策推進事業補助金交付 ②放任竹林整備事業用消耗品等交付 ③自走式竹破砕機の貸出 ④市による委託伐採とボランティア団体による伐採地管理	4	1	9,881	0	8,130	1.2	0.0	0.0	○
			2	9,386	0	8,180	1.2	0.0	0.0	
			3	9,957	0	8,699	1.2	0.0	0.0	
			4	10,425	0	9,623	1.2	0.0	0.0	
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎: 計画より進んでいる、○: 計画どおり進んでいる、△: 計画より遅れている、-: 計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後の取組や方向性

・令和6年度は、10周年記念イベントを起爆剤として、南アルプスユネスコエコパークの価値を広く市民に周知し、南アルプスのファンを獲得する。また、南アルプスの保全と利活用の好循環を生み出す仕組みを構築する。

・ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」については、閲覧数の増加を図ることができたが、昨年度のシステム改修により追加された機能「活動レポート」（外部からの投稿フォーム）件数が少ない状況となっている。今後、第2次静岡市生物多様性地域戦略に位置付けられている当該主要事業は、イベント情報発信と合わせ、各種団体からの活動状況を投稿してもらうなど、より一層の周知を図っていく。

・放任竹林対策については、補助金等の交付等により里山保全団体の活動支援を図ることができたが、団体の人材確保や土地所有者、自治会等からの活動への理解が得られにくいという課題がある。このため、第4次総合計画に当該事業を位置づけ、竹林整備隊の活動や団体相互の意見交換会などを継続して実施していく。また、団体の活動資金不足解消に向けた、将来的な展望として、伐採した竹のエネルギー利用など、経済ベースでの活用を目指していく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	10 生活・環境
----	----------

評価 責任 者	所属	環境局 環境共生課
	氏名	課長 石塚 浩史

政策	2 豊かな自然環境を守り次の世代へ繋いでいきます
----	--------------------------

施策	2 持続可能な自然の利活用の推進
----	------------------

施策の 目的	本市の豊かな自然環境を守り、将来の世代へ引き継ぐための取組を推進し、人と自然が共に生き、誰もが住み続けたいと思えるまちづくりを目指すとともに、自然の保全にとどまらず、市民がより身近に自然の魅力を感じられるよう、自然に親しむ機会を充実させるなど、持続可能な利活用を目指します。
-----------	---

(1) 総合評価

総合 評価	令和元 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	自然環境学習への参加者数については目標値を下回ったものの、その理由が主に新型コロナウイルスによるイベント等の開催中止の影響であること、またウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数が目標値を大きく上回り、自然環境・生態系の保全に向けて一定の効果を挙げている事業もあることから、総合評価を「A」とした。
	令和2 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	新型コロナウイルス感染症によるイベント等の開催中止の影響で自然環境学習への参加者数は目標値を下回ったものの、ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数は大きく増加し、施策の目的である自然に親しむ機会を充実させることができた。
	令和3 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	前年度同様に新型コロナウイルス感染症により、多くのイベント等の開催中止が余儀なくされ目標値を下回った。一方、ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数は大きく増加（令和2年 39,738件→令和3年 53,257件）した。また、市のYoutubeチャンネルに自然・生きもののふれあい動画を公開（6本 総閲覧数 4,656件）することで、施策の目的である自然に親しむ機会を充実させることができた。
	令和4 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	前年度同様に新型コロナウイルス感染症により、多くのイベント等の開催中止が余儀なくされ目標値を下回った。一方、ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数は大きく増加（令和3年 53,257件→令和4年 55,523件）した。また、民間企業協力のもと、市教育委員会等とも連携し、環境教育情報紙を市内の全小学校全学年に月1回配付することで、施策の目的である自然に親しむ機会を充実させることができた。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果 指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	自然環境学習への参加者数	4,621人 （平成29年度）	1	4,671人	4,124人	88.2%	b	
		2	4,696人	2,635人	56.1%	d		
		3	4,721人	3,231人	68.4%	d		
		4	4,746人	3,310人	69.7%	d		
指標 成果 以外の	・市民向け講話や各種媒体を利用してウェブサイトの存在を周知した結果、ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数が前年度を大きく上回った。 （前年度比 13,519件増加、R3実績値：53,257件、R2実績値：39,738件）							

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
環境教育の推進	①環境学習指導員派遣による自然観察会 ②各種観察会の実施	1	1	5,593	0	5,388	1.0	0.0	0.0	○
			2	5,447	0	3,996	1.0	0.0	0.0	
			3	5,769	0	5,482	1.0	0.0	0.0	
			4	4,079	0	3,737	1.0	0.0	0.0	
生物多様性地域戦略の推進	①リーディングプロジェクトの進捗管理 21事業 ②外来生物の適正管理 ③ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」による情報発信	2	1	7,234	0	6,610	1.0	0.0	0.0	○
			2	3,230	0	1,390	1.0	0.0	0.0	
			3	3,219	0	2,900	1.0	0.0	0.0	
			4	3,783	0	3,579	1.0	0.0	1.0	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後の取組や方向性

・環境学習の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等の実施に制限を受けたことから、参加者数が伸び悩んだ状況となった。今後、環境教育行動計画に位置付けられている当該主要事業は、現在の事業内容について、関係機関と協議し、見直しや新規事業を実施するなどして参加者の増加を図っていく。

・ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」については、閲覧数の増加を図ることができたが、昨年度のシステム改修により追加された機能「活動レポート」（外部からの投稿フォーム）件数が少ない状況となっている。今後、第2次静岡市生物多様性地域戦略に位置付けられている当該主要事業は、イベント情報発信と合わせ、各種団体からの活動状況を投稿してもらうなど、より一層の周知を図っていく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	10 生活・環境
----	----------

評価 責任 者	所属	環境局 環境共生課
	氏名	課長 石塚 浩史

政策	2 豊かな自然環境を守り次の世代へ繋いでいきます
----	--------------------------

施策	3 自然を守る人材の育成
----	--------------

施策の 目的	近年急速に進行している地球温暖化、外来種問題などによる自然環境への影響が懸念されています。本市の南アルプスから駿河湾までの豊かで美しい自然環境を守り、将来の世代へ引き継ぐため、環境ボランティアの育成や環境教育を推進し、自然を大切に思う心を育み、市民一人ひとりが自然の価値を改めて認識するよう、自然を守る人材や団体の育成を図ります。
-----------	---

(1) 総合評価

総合 評価	令和元 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標は目標を達成できなかったものの、令和元年度に立ち上げた「竹林整備隊」事業を通して5名が新たに保全団体にするなど、自然を守る人材・団体の育成が図れている事業もあることから、総合評価を「A」とした。
	令和2 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	竹林整備隊事業の開催中止のほか、新型コロナウイルス感染症は河川環境アドプトプログラムの登録団体の活動にも影響したと考えられるが、放任竹林の整備を行う里山保全団体として新たな12団体が活動を始めるなど、自然を守る人材や団体の育成が図られた。
	令和3 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により活動を休止した河川環境アドプトプログラムの登録団体や里山保全団体も見られたが、河川環境アドプトプログラムには3団体が登録、里山保全団体として12団体が新たに活動を開始するなど、自然を守る人材や団体の育成が図られた。
	令和4 年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標は目標を達成できなかったものの、河川環境アドプトプログラムには6団体が登録、里山保全団体として7団体が新たに活動を開始するなど、自然を守る人材や団体の育成が図られた。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果 指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数	86回 (平成29年度)	1	94回	85回	90.4%	b	
2			96回	57回	59.3%	d		
3			98回	65回	66.3%	d		
4			100回	83回	83.0%	c		
指標 成果 外の								・放任竹林の整備を行う里山保全団体として、新たな12団体が活動を始めた。 ・市民向け講話や各種媒体を利用してウェブサイトの存在を周知した結果、ウェブサイト「しぜんたんけんてちょう」の閲覧数が前年度を大きく上回った。 （前年度比 13,519件増加、R3実績値：53,257件、R2実績値：39,738件）

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

